

豊田市中心市街地住民を対象とした路線バスを利用した高齢者外出プログラムの実施

野田宏治（豊田工業高等専門学校 環境都市工学科），手嶋大貴，長崎元（元豊田工業高等専門学校 環境都市工学科）
堂山誠也，加納慧士（豊田市役所 交通政策課），山岡俊一（豊田工業高等専門学校 環境都市工学科）
荻野弘（株式会社 キクテック）

背景・目的

しもやまバス利用者数の減少、平成 27 年度 11,395 人→平成 29 年度 10,109 人（11%減少）
これまで自動車を移動手段とした高齢者に対し、運転免許返納をした時の代替交通手段として路線バスを認識してもらうための体験乗車会を開催した。
しもやまバス（フィーダー）とおいでんバス（基幹）、あるいは鉄道に乗り継いで中心市街地まで移動する。運賃の支払いは IC 乗車券、電子マネーの利用を認識・覚えてもらうことが目的である。なお、運転免許返納を前面には出していない。

地域全世帯へのバス利用アンケート実施

豊田市下山地区全世帯に郵便配布・回収のアンケートを実施。

調査時期	平成 30 年 12 月	配布・回収	地域指定郵便で配布、郵送回収
配布世帯	1496（一世帯 3 票）	世帯回収数	715（調査票 1388）
世帯回収率	48%	調査項目	個人属性、普段の外出状況、しもやまバス、おいでんバス、免許返納

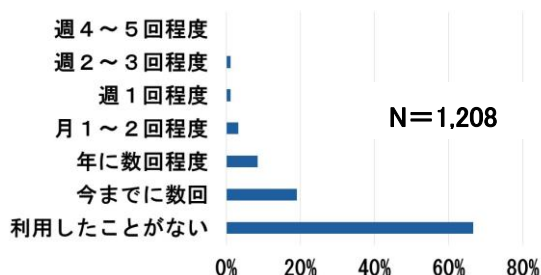


図1 しもやまバスの利用状況

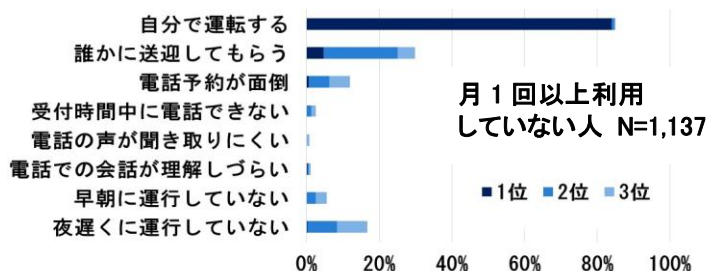


図2 しもやまバスを利用しない理由

体験乗車会の実施

事前に体験乗車会参加者を募集した結果、12名の住民が参加した。乗車ルートは、しもやまバス各停留所からバスに乗車し、下山支所でおいでんバスに乗り継いで、豊田市中心市街地まで移動した。豊田高専の学生が参加者を引率した。
中山間地の高齢者は、ICカードを手にする機会、使用する機会がほとんどなく、ICカードを利用すれば、コンビニで支払いができること、名古屋市内までICカードで料金が支払えることなどを説明した。
その後参加者に体験乗車アンケートや意見交換会を実施した。



写真1 意見交換会の様子

参加者の感想・意見

- ・体験乗車会では複数人が一緒に行動したため、バス乗車時間が短く感じた、体験乗車会に参加してよかった
- ・名古屋まで出かけるときに、切符を買わなくてもよくなる、出かけやすくなる
- ・社内での会話や車窓の景色を楽しめた
- ・ノンステップバスでもバスに乗車する時の段差がきつい

おわりに

今回のバス体験乗車会参加者の多くが運転免許返納後の利用交通手段として気づき、新たな展開が期待でき、今後グループでの外出機会創出に貢献できそうである。バス停環境を整えることも必要であることが明らかになった。